



第38回「国際化学オリンピック」日本代表壮行会

出席者紹介

第38回「国際化学オリンピック」日本代表団

代表生徒： 私立神戸女学院高等学部(兵庫県)3年 今村 麻子(イムムラ アサコ)さん
私立開成高等学校(東京都)2年 田中 成(タナカ ナル)さん
私立開成高等学校(東京都)3年 永田 利明(ナガタ トシアキ)さん
国立筑波大学附属駒場高等学校(東京都)3年 服部 陽平(ハットリ ヨウヘイ)さん

メンター(大会役員)： 化学グランプリ・オリンピック委員会委員 伊藤 真人(創価大学教授)
" 渡辺 正(東京大学教授)

サイエンスアドバイザー： 化学グランプリ・オリンピック委員会委員 嶋田 豊司(奈良工業高等専門学校教授)

ゲスト： 化学グランプリ・オリンピック委員会委員 渡部 智博(立教新座中学校高等学校教諭)
" 市川 朋美(森村学園中等部高等部教諭)

来賓

文部科学省 科学技術・学術政策局基盤政策課長 田中 正朗 様
経済産業省 製造産業局機能性化学品室長 渡邊 宏 様
独立行政法人 科学技術振興機構 科学技術理解増進部長 安部 元泰 様

主催者

「夢・化学-21」委員会 田村 賢三(日本化学工業協会常務理事)
日本化学会化学教育協議会議長 伊藤 卓(横浜国立大学名誉教授)
化学グランプリ・オリンピック委員会委員長 杉村 秀幸(横浜国立大学教授)

司会

化学グランプリ・オリンピック委員会オリンピックWG 主査 工藤 一秋(東京大学助教授)

式次第

14:00 - 14:05 開会宣言、出席者紹介
14:05 - 14:10 「国際化学オリンピック」概要説明(杉村委員長)
14:10 - 14:15 「夢・化学-21」委員会 主催者挨拶
・日本化学会化学教育協議会議長 伊藤 卓
14:15 - 14:30 ご来賓挨拶
・文部科学省科学技術・学術政策局基盤政策課 田中課長
・経済産業省製造産業局機能性化学品室 渡邊室長
・科学技術振興機構科学技術理解増進部 安部部長
14:30 - 14:35 派遣生徒への花束・国旗贈呈
プレゼンター：「夢・化学-21」委員会 田村賢三
14:35 - 14:40 派遣生徒より決意表明
14:40 - 14:50 記念撮影
14:50 壮行会終了
14:50 - 15:10 派遣生徒との懇談会(来賓、主催者、記者等)

【第38回国際化学オリンピック(韓国・慶山大会)概要】

開催期間: 2006年7月2日(日)～11日(火)

場 所: 慶山市民会館ほか

参加国(人数): 約60カ国(約240人)

日本代表スケジュール:

7月 2日(日)	日本出発 - 慶山着
3日(月)	開会式(場所: 慶山市民会館)
5日(水)	実験問題試験
7日(金)	筆記問題試験
10日(月)	閉会式(場所: 慶山市民会館)
11日(火)	慶山出発 - 文部科学省・経済産業省等へ帰国報告

上記以外の日は、エクスカージョン(遠足などのイベント)や韓国文化体験などが行われます。

日本代表(派遣生徒):

今村 麻子さん / 私立神戸女学院高等学部3年生(兵庫県) 昨年度銅メダル獲得

コメント: 今年で2回目の挑戦という事もあり、昨年よりは良い成績を残したいです。また、海外の友達をたくさん作りたいと思います。

田中 成さん / 私立開成高等学校2年生(東京都)

コメント: 出るからには「金メダル」を狙いたいです。忙しくて準備不足な面もありますが、知識だけが問われるものでもないと思うので、頑張りたい。

永田 利明さん / 私立開成高等学校3年生(東京都) 昨年度銅メダル獲得

コメント: 日本の代表として選ばれたわけなので、競技の面では持てる力を尽くしたい。また、海外に行ってたくさんの国の人達と触れ合う非常に貴重な機会になるので、外国の生徒たちとなるべく積極的にコミュニケーションしたい。また、自分にとっては2度目にして最後のチャンスなので、悔いが残らないよう大会を楽しみたい。

服部 陽平さん / 国立筑波大学附属駒場高等学校3年生(東京都)

コメント: 出場するからには全力を尽くせるよう頑張りたい。「オリンピック」なので参加することに意義があると思うし、英語での国際交流も恐れずに積極的にしたいと思う。

取材等のお問い合わせ先 ホームページ <http://www.kagaku21.net/>

(社)日本化学会 / 富樫、河瀬

TEL03-3292-6164 / FAX03-3292-6318

(社)日本化学工業協会内 / 青山

TEL03-3297-2555 / FAX03-3297-2615

〔参考資料〕

〔国際化学オリンピック (IChO = International Chemistry Olympiad) とは〕

1968年に東欧3ヵ国(ハンガリー、旧チェコスロバキア、ポーランド)が始めた高校生の学力試験から発展した、1年に1度開催される「化学」の国際大会です。日本で有名な「数学オリンピック」も同じ3ヵ国から始まりました。1984年にアメリカ合衆国が参加して以来急激に参加国が増え、昨年の台北大会(台湾)には、59ヵ国から225人の高校生が参加しました。

大会は、通常、毎年7月に10日間開かれ、それぞれ5時間に及ぶ実験問題(Experimental Examination)と筆記問題(Theoretical Examination)が出題され個人戦として競われます。成績優秀者には金メダル(参加者の1割)、銀メダル(同2割)、銅メダル(同3割)がそれぞれ贈られます。

日本は2003年のアテネ大会より参加しており、一昨年のドイツ・キール大会、昨年の台湾・台北大会と2年連続で参加生徒全員がメダルを獲得しているほか、ドイツ・キール大会では見事金メダルを獲得しております。

なお、韓国大会で2010年の日本開催が正式に決定する予定です。

〔国際化学オリンピック 日本初参加までの経緯〕

日本化学会は、1980年代後半より同大会への参加を検討し、1988年のヘルシンキ大会(フィンランド)、1989年のハレ大会(東ドイツ)にオブザーバーを派遣しました。しかしながら、出題範囲の規定が日本の高校教育課程と異なる点、大会開催時期(7月初旬の開催は、世界的には6月の卒業式が終わった後ですが、日本では期末試験の最中)、経費など、様々な問題があったため参加を見合わせてきました。

そんな中、日本では産学が協力して実施している「夢・化学-21」キャンペーン事業のプログラムとして、将来の国際化学オリンピック参加を念頭におき、高校生を対象とした「全国高校化学グランプリ」が1999年にスタートしました。

このような動きの中で、国際化学オリンピックへの参加が再び検討され、2002年オランダ大会に再びオブザーバーを派遣、2003年アテネ大会より正式参加が決定しました。

〔「夢・化学-21」キャンペーン事業/全国高校化学グランプリ〕

夢化学21のホームページ <http://www.kagaku21.net/>

1993年、明日を担う若者に化学の大切さや面白さ、有用性、化学技術の重要性などを理解してもらおうと、(社)日本化学会、(社)化学工学会、(社)新化学発展協会、(社)日本化学工業協会の4団体が「夢・化学-21」委員会を組織し、キャンペーン事業を立ち上げました。

「高校化学グランプリ」は、国際的にも通用する若い化学者を育てることを目的として、「夢・化学-21」委員会と日本化学会化学教育協議会が1998年、東京と仙台の2ヵ所で試験的に実施したのが始まりです。翌1999年から、「全国高校化学グランプリ」として全国規模で開催されるようになり、今日では参加者が1,000人を超す大会に発展しております。また、国際化学オリンピックに出場する日本代表生徒も、「全国高校化学グランプリ」の優秀者から選ばれております。

なお、2004年度より、文部科学省から『学(まな)びんピック認定大会』として承認され、名実ともに“化学の甲子園”としての役割を担う大会となっております。

〔参考資料〕

〔過去の国際化学オリンピックにおける日本代表の成績〕

2003年 ギリシャ・アテネ大会(第35回大会)

開催期間: 2003年7月6日(日)～13日(日)

参加国(人数): 59ヵ国(232人)

日本代表の成績結果: 学年は2003年当時

上野 功一さん(私立創価高等学校3年) :銅メダル

佐藤 直人さん(私立創価高等学校3年) :銅メダル

赤羽 正寿さん(私立創価高等学校3年) :敢闘賞

田辺 一郎さん(私立創価高等学校3年) :敢闘賞

2004年 ドイツ・キール大会(第36回大会)

開催期間: 2004年7月18日(日)～27日(火)

参加国(人数): 61ヵ国(233人)

日本代表の成績結果: 学年は2004年当時

川崎 瑛生さん(私立武蔵高等学校2年) :金メダル

小山 貴広さん(私立栄光学園高等学校3年) :銅メダル

神戸 徹也さん(私立白陵高等学校3年) :銅メダル

増田 光一郎さん(県立福岡高等学校3年) :銅メダル

2005年 台湾・台北大会(第37回大会)

開催期間: 2005年7月16日(土)～25日(月)

参加国(人数): 59ヵ国(225人)

日本代表の成績結果: 学年は2005年当時

川崎 瑛生さん(私立武蔵高等学校3年) :銀メダル

鹿又 喬平さん(私立創価高等学校3年) :銅メダル

今村 麻子さん(私立神戸女学院高等学部2年) :銅メダル

永田 利明さん(私立開成高等学校2年) :銅メダル